

Harmony

TEL : 045-342-0255 <http://yokohama-childline.com>

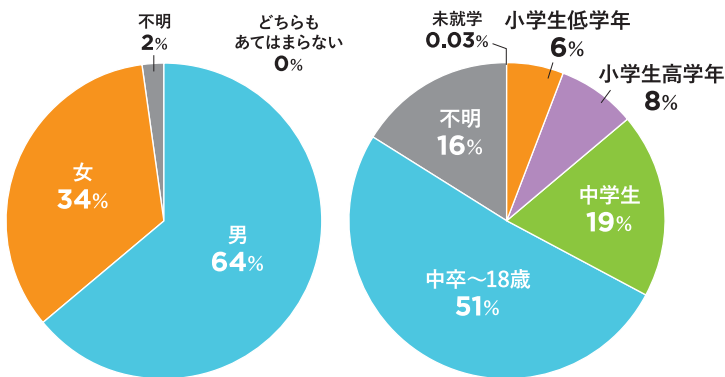


Winter
2024年冬号
No. 2

2023年度にチャイルドラインに寄せられた子どもからの電話

2023年度の子どもの自殺者は小中高合わせて513人となるなど、子どもたちを取り巻く環境はより一層深刻なものとなっている現状を踏まえ、子どもたちのこころの居場所としてのチャイルドライン活動を継続しています。2022年3月からは神奈川県内のみならず、日本全国の子どもたちの声に耳を傾けることを目指し受信地域を全国に拡げ、今年度もたくさんの子どもたちの声を聞くことができました。加えて2023年8月からはオンラインチャットも開始し、より子どもが利用しやすい環境を整え、さらに地域の関係団体と連携し、緊急時や必要なケースにおいてスムーズなサポート体制を構築しています。

会話成立の内訳



着信状況

総数 9,707件

すぐ切れた・無言・お試し
7,119件

会話成立
2,588件

2023年4月1日～2024年3月31日までの1年間に、よこはまチャイルドラインが受けた子どもたちからの電話は9707件（昨年度10770件）でした。そのうち会話が成立したのは2588件（昨年度3136件）、会話不成立は7119件（昨年度7634件）でした。

電話内容別の内訳

内容	学校・フリースクール	部活	性	家庭	職場	ネットトラブル	地域	自分	不明	計
件数	542	38	733	261	7	12	38	957	7119	9707

電話の内容としては、昨年同様に「自分」が一番多く、
ついで「性に関すること」「学校・フリースクール」がトップ3でした。

時折、頻回の子に出会います。以前聴いたことのある声、聴いたことのある話。その同じ話の向こうの気持ちは何なのでしょう。その気持ちに思いを馳せながら話を聴きます。その子にとってこの電話が「居場所」になっているなら、それもチャイルドラインの役割の一つ。ただ、電話依存になって欲しくはありません。ですからよこはまチャイルドラインでは時間の枠を決めています。20分、「今日はこの辺りでいいかな。」応じてくれたら「協力してくれてありがとう。」と話し、電話を終えます。現実の世界のコミュニケーションには様々な制約があります。いつか現実の世界の中でその子にとっての「居場所」ができることを願いながら私たちは話を聴きます。

よこはまチャイルドラインの想い 子どもが“まん中”の社会をめざして

子どもたちの生きづらさは、国際的な解決課題であると同時に、日本では、少子化が進行しています。子どもの生きづらさや子育ての困難感も少なからず、影響をしているといっただいでしょう。昨年、政府は子ども家庭庁を設置し、子育て、子育てを包括的に支援する体制を組みました。この取り組みは重要であり、今後の展開が期待されるどころです。公表されたこども家庭庁のスローガンは「子どもまんなか」ですが、こども家庭庁のホームページには一ヶ所(気づいた範囲ですが)「子どもがまんなか」という文言もみることができます。大切な理念ですが、「子どもがまんなか」について、「子ども」「がまん」「中」と読んでしまいたい状況があるのも事実です。

不登校児童数やいじめの発生数の増加は、それを端的に示すデータといえるでしょう。学校に行かないあるいは行けない事情が多様であり、通学していても理不尽な「がまん」を強いられることもあります。いじめは、被害児童対象が短期間で変化する場合があることも私たちの知るところです。子どもの主体的権利を大切にしながら、よこはまチャイルドラインとして、子どもの声を受け止めていくことを活動の基盤として再確認しています。虐待やいじめ等は、数値の増減ではなく、生きにくさを感じている多様な子ども個々を大切に、現実社会のなかの主体的存在として向き合うことが問われる課題です。あふれかえるような情報の「海」のなかで、それを読み取り、処理していく「リテラシー」が身につけていなければ、フェイク情報に思考や行動に混乱を生じさせてしまいます。子どもと一緒に考えていくわれわれにもリテラシーが求められています。大人や青年と交流するコミュニティも多くが消滅しています。子どもたちがくつろぐことのできる居場所提供も求められています。子どもとつながることで、新たな居場所と関係を形成できるよう活動を展開していきたいと考えます。

チャイルドラインは、守秘義務を基盤とし、社会的発信を続けます。子どもからの電話を「相談」ではなく、

子どもたちに寄り添い、話を聴き、必要に応じて一緒に考えることを活動の基本理念としてきました。一方で、子どもたちのコミュニケーション手段の中では電話が減少し、SNSやメール等が増加をしてくれています。よこはまチャイルドラインは、チャイルドライン支援センターの呼びかけに応じて、2023年度からオンラインチャットなどを試行してきました。今年度は、その成果を検証し、定着させることも課題となっています。電話による子どもとの繋がりを持つ長所(文字ではなく、声の高低や口調によるコミュニケーションが可能)は変わることはありません。原点を大切にしながら、新たな子どものニーズにも対応していくことが求められていると思います。

電話による子どもとの交わりや新たな方法による交わりを豊かなものとするためには、私たちの成長も必須です。今年度も内外の研修を通じて私たちの力量を増やしていきたいと考えます。さらに、関係機関や支援をしてくださる方々との連携もより深めてまいります。子どもたちの主体性や多様性を尊重しながら、子どもとともにあるよこはまチャイルドラインの活動を通じて、子どもに優しい、子どもを中心に全ての人が生活しやすい、あたたかく思いやりのある社会の実現に貢献できるよう、今年度も活動を行ってまいります。

よこはまチャイルドライン代表理事 松原康雄



“よこチャ”についてご紹介します！

よこはまチャイルドラインよもやま

「どんな場所で活動しているの?」「具体的にどんな活動をしているの?」の声にお応えして、活動内容を一部ご紹介させていただきます。

事務所の家具はIKEAから 提供いただいた北欧テイスト

一昨年の事務所引っ越しのタイミングで「IKEA Family 子ども基金」のご支援をいただきました。この活動はイケア・ジャパンが収益の一部を、子どもたちの成長を支える施設を対象に1年につき1団体に商品を寄付したり、インテリアデザインの監修などを行うものです。引っ越しの数ヶ月前からIKEA港北との綿密な打ち合わせを重ね、当日はIKEAスタッフ15名とチャイルドライン5名で家具の組み立てなどを行いました。白を基調とした北欧家具で「子どもの声を受けとめる」というコンセプトを取り入れたリラックスできる素敵な空間になりました。



わたしたちの活動を知ってもらうため、 情報誌「Harmony」を年2回発行しています

「電話で子どもの声を聴く」チャイルドラインですが、子どもの声を聴きっぱなしにしていたのでは、子どもを取り巻く状況は変わりません。「秘密は守る」という子どもたちとの約束に留意しながら、子どもたちの状況を広く社会に伝えていけるように年2回、会員をはじめ、横浜市内の各学校、放課後キッズクラブ、支援企業、行政、図書館、地区センターなどに配布しています。

24年間変わらない子どもたちとの約束は4つ

- ・ヒミツは守るよ
- ・名前は言わなくていいよ
- ・どんなことでも一緒に考えるよ
- ・切りなくなったら途中で電話やチャットを切っても大丈夫

(チャイルドライン支援センター HP子どもページより)

この4つの約束は、子どもたちにとって、よこはまチャイルドラインが安心・安全なところと思ってもらうために必要な条件です。「自分が悪いから…」と考えてる子どもに本当の気持ちに向き合ってもらうために、ひとつひとつの言葉に寄り添い「どうなったら安心できるか」一緒に考えることが大切だと思っています。

現在の受け手は68名

2024年度の講座も開講されました

2024年10月現在の受け手は68名、開設日は月・水・木の16時～21時です。その時間を16時～18時半/18時半～21時と2交代制にしており、各枠に約2～3名で電話を受けています。また「2024年度子ども支援者養成講座」は受け手の養成のための講座となっており、来年度には新しく第13期生が誕生します。

昨年は57.5万枚のチャイルドラインカードを 子どもたちに向け配布しました

「チャイルドラインカード」は全国共済からの寄付により作られており、教育委員会の協力を得て、年に1回、神奈川県内小中高등학교の児童生徒宛てに順次配布をしています。実際に手にしたことで「電話をかけてみよう」というきっかけ作りになっているようで、カード配布後には、まずは「お試し」でかけてくださっているであろう子どもたちからの着信が多くあります。



事務所には全員が読める本棚を設置 本から学ぶこともたくさんあります

事務所の本棚には子ども支援についての専門書をはじめ、過去に研修の講師をお願いした先生の著書等、さまざまな分野について学べる本が揃えられています。また、おすすめの小説などを寄贈していただくこともあり、バラエティに富んだ内容の本棚になっています。どれも自由に借りて読むことができ、受け手の研鑽に役立っています。



徳丸のり子さんとよこはまチャイルドライン

よこはまチャイルドラインの前代表理事の徳丸のり子さんがご逝去されたこと、ご葬儀が6月29日(土)に熊本で行われたとの悲しい知らせを受けました。

昨年1月15日に「よこはまチャイルドライン20周年」を祝う集いを岩間市民プラザで行いました。その時の徳丸さんのこれまでのみなさまへの感謝の言葉とチャイルドラインに対する熱いメッセージが今も心に残っています。

23年前になるでしょうか、「横浜にもチャイルドラインを」と鶴見公会堂で行われた開設への集会、日々の活動をはじめ箱根や湯河原などで行った一泊研修、総会の後の飲み会・・・と、徳丸さんと共にすごした楽しく充実した日々が思い出されます。ビールをおいしそうに飲みながら、チャイルドライン



への思いを語られていました。いつも「子どもたちの幸せ」を第一に考えてチャイルドラインの活動をされ、私たちを蒸気機関車のように力強く引っ張って下さいました。

そして徳丸さんの念願であった新たな活動拠点が与えられました。慣れ親しんだ宮田町の拠点とお別れするのはさびしかったのですが、駅から近く安心して活動できる場所を整えて下さいました。この大仕事を終え、昨年の総会で代表理事を松原理事にバトンタッチをされました。開設から今まで「よこはまチャイルドライン」をまもり大きく育てて下さったことに感謝の気持ちでいっぱいです。

徳丸さんが大事にされていたことを受け継ぎ、一人でも多くの子どもたちがチャイルドラインと出会い、幸せに過ごせるように、これからも多くの方々に支えられながらチャイルドラインの活動をみんなで受け継いでいきたいです。

徳丸のり子さん ありがとう・・・これからも天国からみまもって下さい・・・

よこはまチャイルドライン副代表理事 松橋秀之

ご支援のお願い

よこはまチャイルドラインは、みなさまの寄付によって支えられているNPO法人です。活動を支援していただくサポーターを広く募っております。

●正会員・賛助会員になる.....

年会費(個人)3,000円/1口
年会費(法人)10,000円/1口
口座番号:00270-6-13812
口座名義:NPO法人よこはまチャイルドライン
※郵便振替(払込票をご利用ください)

●1回のみのご寄付も受け付けております.....

口座番号:00270-6-13812
口座名義:NPO法人よこはまチャイルドライン
どうぞみなさまご協力をよろしく願いいたします。

ご支援ありがとうございます

2024年2月～2024年7月までの
寄付総額

432,923円



電話利用状況

2024年1月～7月

主訴	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
学校 フリースクール	30	34	49	40	55	51	47
部活	1	2	3	7	1	4	6
性	52	32	65	39	51	39	41
家庭	9	16	19	23	19	16	28
職場	0	2	0	0	0	1	0
ネット トラブル	0	0	0	2	0	3	0
地域	0	1	4	5	2	1	2
自分	69	56	98	78	72	70	70
不明	551	417	462	394	370	376	547
累計	712	560	700	588	570	561	741
会話成立率	22.6%	25.5%	34%	33%	35%	40%	26%
成立件数	161	143	238	194	200	185	194

編集後記

「Harmony」2号目は、2023年度の事業報告を中心に、よこはまチャイルドラインの日々の活動をご紹介させていただきました。2025年が皆さまにとって、そして子どもたちにとって喜び多い一年となりますように(小山)

この情報誌は「NHK歳末たすけあい」の配分金により作成しています

発行 2024年11月 特定非営利活動法人 よこはまチャイルドライン